

世界文化遺産の寺に  
1泊100万円の  
文化体験型宿泊施設あり

アプリで  
この体験  
購入できます

# 仁和寺で 日本文化の 神髄を体験

遅咲きの御室様で知られる仁和寺は平安の世の888年、宇多天皇が創建。その後、実に第30世まで約1000年にわたって皇室出身者が門跡を務めた寺院である。その王朝文化の薫り漂う、世界遺産の古刹で今年、世にもまれなる文化プロジェクトがひそかにはじまっている。

写真：たなかまりこ 文：水野香（アリス） 図面：A2WORKS  
photo: Mariko Taya text: Kaori Nagano (Ariska Inc.) plan: A2WORKS

伸びやかな空気に満ちた仁和寺境内に「御殿」と称される一角がある。檜皮葺き・入母屋造りの瀟洒な宸殿に白書院、黒書院、霊明殿が渡り廊下で連なる一帯だ。名の由来は文字通り、皇室ゆかりの門跡の御座所（居室）だったから。かつて御所の常御殿が移されたといい、明治半ばの焼失を経て再建。御所御用の絵師の手になる優美な大和絵の襖や精緻な欄間など見どころ多く、いまも雅な雰囲気をもたらしている。

京都に数多ある門跡寺院の中でも、仁和寺は第一位の格式を誇る。今上天皇が上洛され、京都御所にてそそうたる寺院の僧侶が出迎えるとき、先頭に並ぶのはいまま仁和寺の門跡だ。そんな格と優美を保つ仁和寺にて今春、特別な文化体験プログラムが始動。境内に設けられた宿坊に泊まり、通常は立ち入れない堂塔内部を見学、夜や早朝の森閑とした境内を独占でき、極めつけはこの壮麗な御殿で宴を催すといったことさえできるという。

日本財団の「いろはにほん」プロジェクトに参画したもので、日本文化に高い関心を寄せる国内外の富裕層や企業などが対象。原則非公開の歴史的建物に滞在し、文化プログラムを体験してもらい、その利用料の一部は、文化財の維持・修復等に充てられるという。

池泉回遊式の北庭から望む御殿。宸殿を中心とする建築群は明治末～大正期にかけて再建。典雅な王朝美を今日に伝える貴重な遺構だ

仁和寺の秘せられた五重塔の中は

大日如来を中心にした曼荼羅の世界

1637(寛永14)年建立の五重塔(重文)。通常非公開の内部は曼荼羅のごとく。大日如来を中心に胎蔵界五仏を配し極彩色の柱に諸尊が



30世門跡は還俗し、征討大將軍に任ぜられ、天皇から託された「錦の御旗」(仁和寺に現存)を掲げて鳥羽伏見の戦いに臨んだ。「毛理嶋山官軍大勝利之図」(霊山歴史館蔵)



1) 御所の紫宸殿が移築された金堂(国宝)。2) 仁和寺を創建した宇多法皇。3) 皇族として最後の門跡となった30世門跡・純仁法親王

# 応仁の乱、明治維新……あの歴史のターニングポイントに仁和寺あり

古都随一の格式を誇る仁和寺とは、そもそも？ 1000年超の歴史から重要な節目をたどってみよう。

古より景勝地として知られる大内山のみもとに、光孝天皇が発願したのは平安時代の886(仁和2)年。2年後、父の遺志を継ぎ宇多天皇が開創し、当時の年号から仁和寺と命名された。退位後、落飾した宇多法皇は御座所、すなわち御室を境内に造営。これがやがて地域名にもなっていく。

その後も代々天皇の子や兄弟が門跡を務めた仁和寺は威容を高め、平安後期には院家・子院の堂舎が70余りにも及んだ。鎌倉期の『徒然草』には仁和寺の法師の世間知らずぶりを描いた滑稽譚が登場するが、裏を返せばその權威の周知を物語るともいえる。

寺が危機を迎えるのは、室町時代。応仁の乱(1467~1477年)で

西軍の陣が敷かれた境内に東軍が火を放ち、伽藍は灰燼と帰してしまう。本尊・阿弥陀三尊(国宝)や經典などは双ヶ岡麓にあった真光院に移され、その後100年余り守り続けられた。

本格的な復興は江戸初期。3代將軍・徳川家光と姻戚関係にあった21世門跡・覚深法親王が、家光に再建を直訴し、20万両の寄進を受ける。建替え中の御所より多くの建物が下賜され、壮麗な伽藍に改められた。復興後の門前には野々村仁清や尾形光琳・乾山などの芸術家が集い、有名な御室桜が賞翫されるようになったのもこの頃。仁和寺は、京の華やかな文化の爛熟をもたらした拠点でもあったのだ。

しかし江戸時代が幕を閉じるとき、大きな転機が訪れる。新政府軍の要請により30世門跡の純仁法親王は還俗し、出陣。「錦の御旗」が官軍の戦意を高揚、勝利を決したと伝えられる。

明治維新で皇室出身の門跡は絶えたが、その後も皇室との深い縁は続く。第二次世界大戦で日本の敗色が濃厚となったとき、近衛文麿が訪れ、昭和天皇がここで出家することで収拾しようとしたという逸話も残る。

1994年に世界遺産に登録された仁和寺。日本の歴史と文化を語るに、決して欠くことのできない寺院なのだ。

仁和寺年表

886(仁和2)年	光孝天皇の発願で御願寺(後の仁和寺)を着工
887(仁和3)年	光孝天皇が崩御、宇多天皇が即位
888(仁和4)年	仁和寺の開創
894(寛平6)年	遣唐使の廃止
897(寛平9)年	宇多天皇が退位、醍醐天皇が即位
899(昌泰2)年	宇多上皇が落飾し、宇多法皇に。法皇の称号をはじめで用いる
901(昌泰4/延喜元年)	菅原道真、大宰府に左遷
904(延喜4)年	宇多法皇が仁和寺に御座所を造営して移る
905(延喜5)年	醍醐天皇の命で古今和歌集が編纂される
931(承平元年)	宇多法皇が崩御
1010(寛弘7)年	藤原道長の妻の願いで、観音院灌頂堂が建立
1119(元永2)年	この頃源氏物語完成
1122(保安3)年	4月に金堂、東西回廊、鐘樓、経蔵、三面僧房、観音院、灌頂院などが焼失。12月、金堂が再建される
1130(大治5)年	観音院、灌頂院、仏母院が再建される
1185(元暦2/文治元年)	待賢門院璋子(鳥羽天皇中宮)の願いで、法金剛院が建立
1185(元暦2/文治元年)	平氏の滅亡
1281(弘安4)年	性助法親王が蒙古調伏のため孔雀経法を仁和寺大聖院に修する
1274(文永11)年	蒙古来襲(文永の後)
1281(弘安4)年	蒙古再襲来(弘安の後)
1468(応仁2)年	応仁の乱(1467~1477)で仁和寺に陣を構えていた西軍への東軍の攻撃により、仁和寺焼かれる
1591(天正19)年	豊臣秀吉が仁和寺に860石の朱印地を与える
1617(元和3)年	徳川秀忠が仁和寺に1500石の朱印地を与える
1634(寛永11)年	覚深法親王が幕府に仁和寺の再建を願い出て、許可される
1646(正保3)年	仁和寺の伽藍、再建される
1827(文政10)年	御室八十八ヶ所霊場を開設
1867(慶応3)年	大政奉還
1868(慶応4/明治元年)	鳥羽伏見の戦い(戊辰戦争)はじまる。
1887(明治20)年	仁和寺に入っていた30世門跡・純仁法親王が還俗し、仁和寺宮嘉彰親王として征討大將軍に任ぜられる
1914(大正3)年	宸殿・勅使門が焼失
1988(昭和63)年	宸殿の新築工事竣工。仁和寺各殿堂新築工事落成式
1994(平成6)年	仁和寺開創1100年記念大法会執行
	ユネスコの世界文化遺産に登録される

皇室ゆかりの世界遺産の寺で

雅な音色が誘う時空を超えた体験を

夜の帳が降り始める頃、仁和寺の震殿に荘嚴な音色が響いた。天空へ届くかのような鳳笙と能管の調べに身をゆだねると心は王朝時代へ



雨のそぼ降る宵。北庭に面した御殿廊下を、奏しながらゆっくり進む能管奏者・野中久美子さん。能管と雨音との共振が心を震わせる

# 歴史の舞台で、日本の美に出会う

1) 演奏前、笙を温める鳳笙奏者・井原季子さん。2) 宸殿から枯山水の南庭を挟んで白書院を望む。黄昏時、行灯の光に御殿が浮かぶ。3) 門跡の非公式の対面所・白書院の正面には勅使門。透かし彫りが見事

御所御用の絵師・原在泉による三船祭図など、四季折々の貴族の風俗が描かれた襷絵は優美そのもの。透し窓や欄間にも精緻な意匠が凝らされ、いつまでも眺

造りである。上質な一棟での穏やかな眠りから覚めたら、金堂での勤行へ。静謐なお堂に読経と法具の澄んだ音色だけが響く、まさに心洗われる時……。ゲストは僧侶の案内で、通常非公開の諸伽藍の見学も楽しめる。たとえば、先の金堂は、慶長年間（1596〜1615年）築の内裏・紫宸殿を移築したものの（国宝）。極彩色の彫刻など桃山時代の面影が残る。江戸初期築で和様の風をよく保つ五重塔（重文／P30）の内部には、菊花文の格天井や鮮やかな彩色の諸仏や真言八祖の図が。やはり通常非公開の経蔵には巨大な八角形輪蔵があり、空海の直筆写経を含む『三十帖冊子（国宝）』も収められていたという。さらに清涼殿の古材を使った御影堂など御所ゆかりの建築がめぐる。最も王朝美を感じられるのは、写真の宴が開かれた御殿。中心となる宸殿は、かつて御所の常御殿が移された地で大正期に再建。上段の間から三室が連なり、御所御用の絵師・原在泉による三船祭図など、四季折々の貴族の風俗が描かれた襷絵は優美そのもの。透し窓や欄間にも精緻な意匠が凝らされ、いつまでも眺

かつて「御室御所」と称された仁和寺。まさに宮殿のような雅やかさをまとう寺院での文化体験とは？ 内容はゲストのオーダーに応じ自在に組まれるというが、一例を見ていこう。写真は、フランスからのゲストが大感激したというプログラムの再現。日が暮れ、行灯のほのかな明かりに照らされた宸殿に現れたのは、鳳笙と能管の演奏家。雅楽と能楽というふたつの日本古楽の競演が、たちまち観る者を悠久の時空へと誘った。神秘的な音色の余韻を楽しむ中、料理が運ばれてくる。門跡寺院の仕出しを担う店「上幸」による繊細で滋味深い精進の品々。舌鼓を打つたら、静寂広がる夜の庭園散策へ。築山の上にある茅葺きの茶室は光格天皇遺愛の飛濤亭を訪れる。中に入って一服すれば気分はさながら貴人。そして漆黒の闇に包まれた境内を歩き特別な宿坊へ。滞在するのは松林庵（P39）。江戸末の諸大夫で寺医も兼ねた久富遠近守文連の子孫から寄贈された旧家を2018年にリノベーションした数寄屋



酒もゲストの好みに合わせて用意。今回は「月の桂」の純米酒とにごり酒



夏の果物には、初夏開催の宴にうれしい初物のスイカが、紫陽花柄のガラス器に涼しげに盛られた



赤出汁には南禅寺麩となめ茸、ミョウガ。昆布出汁で炊き上げた爽やかな新ショウガごはん



揚げ物は、賀茂ナスの揚げ出汁に大根おろし。ほどけるように軟らかいナスによく出汁が染みている



冷やし物として、長芋とろろにじゅんさい。枝豆も入り、見た目以上に変化に富む食感が楽しい一品



輪島本塗りの平皿には包み湯葉に輪島ぜんまい、一寸豆、柚が添えられている。みずみずしい味わい



奥から時計回りに胡麻豆腐、芋茎胡麻酢和え、擬製豆腐・新薩摩芋の梅ノ尾煮・青紅葉麩など五種盛

精進料理とともに  
愉しむ



早朝のお勤め。読経が金堂に響き渡り、光彩が本尊・阿彌陀如来に厳かに注ぐ。通常扉を閉ざすだけに浄土を描く彩色が鮮やか

# 境内の特別な一棟に泊まる



1) 松林庵2階の茶室風空間。和モダンなインテリアは「小野意匠計画」が担当。2) 門扉を透かして石灯笼と枝垂れ紅葉が出迎へ、露地へと誘う。3) 夜は寢室になる1階。プレミアムな寝心地の布団は、京都の老舗「イワタ」製 (P100参照)



4) 霊明殿の東側に設けられた茶室・遼廓亭。門前の尾形光琳邸から移築されたという説も  
光格天皇遺愛の席と伝わる茶室・飛瀟亭。内から貴人口を通した御殿北庭の眺めは絶景  
御殿南庭。敷き詰められた白川砂に端正な模様が描かれた枯山水。左奥には勅使門  
小川治兵衛が整備した御殿北庭。築山に茶室・飛瀟亭、借景に五重塔を望む美しい眺め



御室仁和寺  
住所：京都市右京区御室大内33  
Tel：075-461-1155  
拝観時間：9:00～17:00 (最終受付16:30)、12～2月～16:30 (16:00)  
拝観料：御殿500円、霊宝館(期間限定)500円、伽藍特別入山500円  
アクセス：電車/嵐電御室仁和寺駅から徒歩約3分  
バス/京都駅からバスで約40分



6 八角形の回転式輪蔵を収める経蔵(重文)。前に釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩などが  
5 現在も天皇のみが用いる勅使門。檜皮葺で虹梁、欄間などには壮麗な彫物装飾が

1泊100万円の滞在例  
1日目  
14時 「松林庵」にチェックイン  
15時 国宝「金堂」や重要文化財「五重塔」内部などを見学  
18時 御殿「白書院」にて食前酒をいただく※  
18時 御殿「宸殿」にて雅楽鑑賞※  
19時 御殿「宸殿」にて精進料理をいただく※  
20時 夜間の散策。茶室「飛瀟亭」でお茶をいただく  
2日目  
6時 国宝「金堂」で朝の勤行に参加  
7時 朝食  
9時 写経体験  
11時 「松林庵」チェックアウト  
※部分はオプションで要別料金手配  
オプション料金例  
雅楽(奏者1名)5万円  
能(演者1名)5万円  
生け花 3万7000円  
精進料理 1名3万5000円

この仁和寺での文化体験型宿泊、実際にできます。詳しくはDiscover Japanアプリをチェック!こちらから予約できます。

めていたくなる。この御殿が通常拝観終了後、貸切になるのだ。  
稀有な文化体験をオーダーメイドでかなえるプロジェクトを実施する背景を、仁和寺執行長の吉田正裕さんにかがった。「宇多天皇にはじまり、皇子皇孫によって大切に継がれてきた文化財が仁和寺にはあります。しかしその保存継承には莫大な費用がかかるのも事実。2017年の台風21号で甚大な被害を受けた宸殿をはじめ、補修は差し迫った重要な課題でもあります。そこで国内はじめ、近年増す海外からのお客さまの中でも、文化財に敬意をもつて接してくださる方をお迎えすることで、理解と継承へのお力添えをいただければ」と。  
宿泊料は1泊100万円。宿泊滞在は5名までだが、貸切時の宴などにほかの客人を招くこともできる。ほかでは決して味わえない体験に、続々と問い合わせが寄せられているという。  
珠玉の宝を抱えながら、その継承の手立てを日本各地の神社仏閣が模索する現代。仁和寺のプロジェクトは、文化財の活用と維持を両立する新しい道を、ひとつ示しているといえるかもしれない。  
1) 真言宗御室派総本山ゆえ早朝は諸堂をめぐり勤行する、修行僧の姿も拝める。  
2) 「文化財に敬意をもつ方に来ていただければ」と執行長・吉田正裕さん

